



立正大学

RISSHO University Alumni Association Since 2009

立正大学校友会報

No.39

たちばな

2018.10.1



発行／立正大学校友会

- P.02 ~ホームカミングデー in 橘花祭~ 開催のご案内
- P.03 校友会費B等納入者一覧
- P.04 平成30年度校友会主催講演会採録
- P.09 立正大学同窓会 副会長 立正大学同窓会活性化会議
事務局長のご挨拶・物故者追善法要開催報告
- P.10 平成30年度立正大学同窓会定期総会報告
- P.12 同窓会支部総会開催報告・同窓会支部活動報告
- P.13 立正大学同窓会・立正大学橘会共催 地域校友の集い
- P.14 平成30年度橘会保護者懇談会開催報告
- P.16 卒業生の活躍・INFORMATION

平成30年度「校友の集い」

開催日：平成30年11月3日(土) / 10:00~17:00

～ホームカミングデー in 橘花祭～ 開催のご案内

10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

10:00~17:00

1号館1階 第3会議室(*11月3日~4日の2日間設置いたします)
乳児のオムツ交換コーナー・授乳コーナーを含むキッズルーム(社会福祉学部同窓会協力)



11:00~12:00

1号館4階 第7会議室
校友会主催記念講演会「温暖化は天災か人災か?~川柳を通じて健康への影響を語る~」
講演者：福岡 義隆(立正大学名誉教授)



13:00~14:00

1号館4階 第7会議室
本学ゆかりの断家による……
立笑(正)点 寄席



古今亭 義隆



三遊亭 鳳笑

10:00~14:00

学生広場 橘花祭模擬店団体による飲食販売、大学周辺企業による物販、
立正マルシェ 東京中小企業家同友会南部協議会によるフリーマーケットなど



三遊亭 神楽



古今亭 志ん五



三遊亭 愛九

10:00~13:00

5号館3階 532教室(礼拝教室)
仏間ご開帳・ご祈祷



10:00~14:00

7号館2階 第2食堂
同窓会地方物産展



12:00~16:00

8号館地下1階
古書資料館見学ツアー(学術情報課協力)



11:00~12:30

9号館地下2階 9B22教室
橘会就職報告会(キャリアサポートセンター協力)



11:30~12:30

9号館地下1階 9B13教室
大学説明会(入試説明会)&大学紹介DVDの上映

13:30~14:30



15:30~16:30

10:00~17:00

9号館1階 通路
立正大学の歴史[パネル展示](大学史料編纂室協力)

11:00~12:00

9号館2階 921教室
OB・OG先輩を囲む会 ~中学、高校の先生方と話そう!~
(教職教育センター・文学部同窓会・地球環境科学部同窓会協力)



13:00~14:00

10:30~12:00

9号館2階 922教室
法学部卒業生異業種交流会「Ah!キミに逢えて良かった!」(法学部同窓会協力)

13:00~14:00

11:00~12:00

9号館2階 923教室
文学部英文学科・英米文学科・文学科英語英米文学コース卒業生
および文学研究科英米文学専攻修士を囲む会

*当日の開催スケジュールに関しましては、変更になる可能性があります。最新情報に関しましては、校友会HP(<http://alumni.rissho.jp/>)をご確認ください。

校友会費B等納入者芳名(順不同、敬称略)

— ありがとうございます —

《平成30年度 上期

(4月1日～8月31日)納入分まで》

お寄せ頂いた会費・寄付金等納入者につきましては、平成17年4月より個人情報保護法が施行されておりますが、「掲載許可」をいただいた方のみ都道府県名・氏名に限って公表させて頂きました。何卒ご了承下さいませようお願い申し上げます。なお、「掲載許可」に関する詳細につきましては、本紙巻末INFORMATION内の「2018年度校友会費B(卒業生・現元教職員等会費)のご案内」をご覧ください。

◆北海道◆

中村啓承
豊田芳郎
稲垣見穂
河関香寿美
永井健二
喜多龍一
浜崎智淳
久富一天
今裕
片岡好治
横田定美
真鍋郁郎
吉田努
村椿幸二
今野公一

◆青森県◆

齊藤誠悦
津軽隨至
間宮隆文
楠美隆嗣
澤口公孝
岸玲子
工藤明

◆岩手県◆

渡部紀子
川村均
宇野智謙
田鎖英明

◆宮城県◆

佐藤泰宣
布施東吉
鈴木潤一郎
松田之宏
風間文静
櫻井信也
星紀之
中川淳芳
四龜健彦

◆秋田県◆

小柳木麻由美
岡部正彦
工藤潤平
海道利夫
三浦良隆
岩倉宣行
齋藤雅夫
伊藤弥弘
山内信弘

◆山形県◆

今野隆
佐藤毅
土谷ツヤ子
高橋重志
佐藤尋行

◆福島県◆

高橋達雄
佐藤優之介
鈴木秀風
中島隆一
三瓶ユキエ
山上大介
羽田豊秋
大河原勉
水添博
新妻宏明
白岩剣士
一条幸一

◆茨城県◆

谷島洋司
泉隆之
福島啓文
井上哲郎
大林由美子
飯塚恭孝
木幡信彦
鈴木茂正
串田一也
三上要玄
小菅大康
中村三喜
皆川光雄
前刀一貴
河刀崇人
河原亮

◆栃木県◆

大島一人
須藤進太郎
飯野博之
齋藤邦昭
室田憲司
佐藤善一
吉井榮一
笠原俊一
青野友子
青木竜大
川又啓多郎

◆群馬県◆

下田裕二
田島等
小林真一
永澤義弘
宮崎広保
佐藤洋
根岸衣美子
横尾勲
西島岳史
横田貴
瀧澤秀昭
村尾洋明
小暮達也
小野文瑠
柳澤博文
赤坂一郎
佐藤智得
木暮百合恵
松山範彦

◆埼玉県◆

坂田三允
山口雅功
沖久雄
秋田正夫
須藤陽子
今井一忠
佐久間晴代
持田敏夫
石黒誠
関沢誠弥
鈴木敏子
相原伸司
早川進一
岡野美佐子
小山久夫
設楽健士
渡邊美都
野呂文大
濱田文護
栗田純一
吉富明義

柿沼房雄
橋本友太
檜山正夫
並木孝之
長堀明亮
沼田正順
新井正人
田島初雪
村木学
眞野初
岩崎典邦
高橋康司
小山和香
田中貞真
田中貞龍
富岡真昇
阿武野郁子
石井亨
井上文和
大塚博
志賀奈津子
山川澄男
下田雅之
白井正
堺本辨次
二木宣行
豊田正雄
伊原秀幸
吉澤寿子
樋口景吉
濱田文謙
下鳥豊
逸見光久
山崎厚子
奥山進次
高橋精一
金子幸司
磯憲弘
渋谷昌利
高橋弘美
間篠翔吾
松田洋昭
山崎光洋
松永慈弘
鈴木規夫
加藤賢一
山下良雄
高塚安一
老本理恵

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆千葉県◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

◆千葉県◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

西村和男
大森俊栄
恩田克巳
豊田雅之
木内健一
吉岡達展
久保康雄
染谷順子
星野栄
上村貞雄
池田浩仁
吉岡哲男
飯塚通允
田中貞真
田中貞龍
佐々木信一
加瀬守
勝田純彦
尾形勇
荒井明夫
山本和幸
藤崎剛
國方勢津子
内山善行
天目石一也

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

外山寛穂
安井(加藤) 美佐江
吉川哲夫
肥後吉美
吉田明人
千田昭弘
大野高史
岸由晴
渋谷博邦
桃井西郎
宮本雄太
出井紀幸
坂西正行
高橋秀郎
高橋靖夫
水谷美恵子
米田欣司
森健二
橋本重喜
金子明史
小山満
野口達雄
岡昭治
吉田仁久
田坂裕章
会田明子
櫻木光司
西澤民夫
鈴木良敬
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

小山俊介
松村三功
提審利男
由本健二郎
佐川篤志
山本滋雄
黒田昭司
尾崎光久
小林宏之
国府田義昭
國府田久遠
増田幸静
原敏一
中村正次
馬場智江
青木和夫
米田欣司
奥村恵一
佐藤則光
金子博彦
加藤成一
藤原頼親
山田茂
平本俊弘
金子竹成
森田喜久
櫻木光司
西澤民夫
鈴木良敬
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

菊地是宗
朝比奈玄馬
◆長野県◆
牧嶋大
岡田晴雄
長昌治
徳高一久
神田孝夫
山本邦雄
丸山務
鎌倉光
和田裕之
望月龍昇
五味久勇
高野良之
櫻井政信

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

日野学哉
小出信篤
菊田俊淨
大上雅紀
草壁尚也
後藤忠雄
安橋尚秀
山本恵彦
樋口和久
井本学明
田村正夫
三好一行
野口清継
加藤哲生
河村瑞栄

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

◆愛媛県◆
竹田利夫
村口泰則
松本猛
原田和子

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

原田忠彦
神川清
中村妙子
石原秀明
佐藤孝
島崎康夫
猿山保
浅野元紀
上村裕
馬場富男
田中寛
横山裕
河又浩昭
長屋伸
石垣世紀
三上恵司
風岡稔
志村範一
丸山富子
芳田守
長谷川眞
洲鎌次
神博充(三遊亭神楽)

◆東京都◆

齊藤岐代未
相川英一
影山信雄
中村廣己
山崎崇弘
小畑文誠
佐藤誠
櫻井智照
中村二郎
石井光恵
宮本達也
北尾義昭
小山善之
大木正
瀧澤賢秀
川村治
正木達哉
勝田紀彦
森文彦
三浦俊一
尾崎敏明
金木拓也
藤崎宏道
池田善久

立正大学校友会記念講演会を開催しました

[平成 30 年度立正大学同窓会定期総会 in 九州・熊本 校友会主催講演会採録]

「熊本地震の概要と自然災害への備え」講師：熊本大学大学院先端科学研究部・准教授 竹内 裕希子氏

はじめに

ご紹介いただきました竹内です。齊藤学長のお話の中に私の兄の話がありましたが、兄は仏教学部を8年かかって卒業させていただきました。私は立正大学では文学部地理学科を卒業後、東京農工大学の修士課程を修得し、その後立正大学で博士課程を学ばせていただきました。合わせて7年間立正大学にお世話になりました。兄と合わせて15年間立正大学にお世話になっています。

私は地理がとても好きでした。大学を選ぶときに、「立正大学にはとてもいい地理学科があるので受けたらどうか」と、兄からのアドバイスがありました。兄妹で同じ大学に行くのはどうかと難色を示したら、自分は4つ上なので私が入学するときには卒業していないから大丈夫だと言われました。それで地理学科を受けたわけですが、入ったらまだいて卒業が同じになりました。

本日は同窓会の場にお招きいただき、諸先輩方の前でお話ができることを光栄に思っております。40分という時間ですが、お付き合いいただけたらと思います。

先ほど、学長からもお話がありましたが、2016年に熊本地震がありました。同窓会、校友会から多額の寄付金を熊本にいただきました。誠にありがとうございます。

熊本城の復興に20年かかるということですが、人の心の復興も着々と進みながらも、行きつ戻りつしております。今日明日と熊本の復興している部分、まだ時間が止まっている部分を見て頂けたらと思っています。

現在、私は熊本大学大学院先端科学研究部で准教授をしています。先端科学研究部は何をしているところかという質問をいただくことが多々あります。工学部と医学部が一緒になっているというのが実際のところですが、私は工学部土木建築学科で、学生に自然災害と地域防災、防災教育などについての授業をしています。

熊本の自然災害

熊本県の地図をご覧ください。東に阿蘇山があります。阿蘇山は4月末にやっと入山規制が解けて、火口まで行けるようになりました。定期的に噴火を繰り返している阿蘇山ですが、地震があった半年



2018年5月27日 阿蘇山

竹内 裕希子 (たけうち ゆきこ)氏

【学歴】

- 1998年3月 立正大学文学部地理学科 卒業 学士(地理学)
- 2000年3月 東京農工大学大学院農学研究科環境・資源学専攻森林科学コース修士課程 修了 修士(農学)
- 2003年3月 立正大学大学院地球環境科学研究科環境システム学専攻博士後期課程 単位取得満期退学 博士(理学)取得 立正大学

【経歴】

- 2003年4月 独立行政法人 防災科学技術研究所 特別研究員
- 2006年4月 京都大学防災研究所 研究員
- 2008年4月 京都大学大学院地球環境学堂 特定助教
- 2012年3月 京都大学学際融合教育研究推進センター 特定准教授
- 2014年3月 熊本大学大学院自然科学研究科 准教授
- 2016年4月 熊本大学大学院先端科学研究部 准教授

【研究テーマ】

- 1) リスクコミュニケーションの適応と支援のための防災教育教材の開発とその提示方法・枠組みに関する研究
- 2) 防災に関する地域固有技術の収集とその転用に関する研究
- 3) 地域防災における学校施設の役割に関する研究

【近年の社会活動・委員会】

- 2014年～現在 熊本県防災会議委員
- 2016年 内閣府「地区防災計画制度の普及促進の在り方に関する有識者懇談会」委員
- 2017年 熊本県「震災ミュージアムのあり方検討有識者会議」委員
- 2017年 熊本県「学校防災教育指導の手引き作成委員会」委員長
- 2017年 益城町「平成28年熊本地震の記憶の継承検討・推進委員会」委員
- 2017年 南阿蘇村「南阿蘇村避難所運営マニュアル策定委員会」委員長



後の2016年10月にも大規模な噴火をしています。熊本は阿蘇山の噴出した火山灰でできている地域が広くあって、雨が降ると崩れやすく、崩れた土砂で土石流が発生するという自然災害が多発しています。

近年ですと、2012年に九州北部豪雨災害が発生しています。この会場から白川が見渡せたと思いますが、その白川の少し上流、熊本大学近辺で撮影した写真です。1階部分が浸水していて、ヘリコプターで救助されたという災害です。昨年は、福岡県でも九州北部豪雨災害が発生して、朝倉市を中心に多くの方が亡くなりました。この2012年の災害でも阿蘇地域を中心に多くの方が亡くなりました。下流ではこうした災害が、上流では



2015年9月15日 阿蘇山



2012年 九州北部豪雨災害 (白川：熊本市北区龍田陣内)

土砂災害が多発するというのが、熊本県の、特に阿蘇山の地域、白川流域で発生する災害です。2012年以前にも、この地域では繰り返し豪雨が発生して土砂災害が起こり、下流では洪水災害が起こることを繰り返しています。



2012年 九州北部豪雨災害
阿蘇市坂梨地区付近の土砂災害



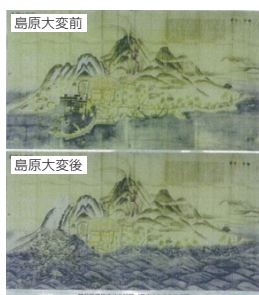
1999年9月24日 不知火高潮災害

海もある熊本県では、高潮災害にも繰り返し見舞われています。1999年の不知火高潮災害では人家の1階が全て浸水した状態になりました。熊本が接している有明海は日本で一番干満の差が激しく、年間で6メートル位変わっているとされています。ですから、満潮期に台風が重なると高潮災害が発生しやすい状況を生み出しています。過去にどのくらい高潮災害が発生しているのかというと、記録が残っているところでは、1976年から繰り返し高潮災害が起きています。



有明海岸の高潮災害

熊本県から有明海をはさんで長崎県の島原半島があります。1990年代に大規模な火砕流が発生した雲仙普賢岳の噴火が記憶にあるところですが、1792年にも噴火しています。このときに、普賢岳の眉山が崩れ、崩れた土砂が海に流入して津波が発生しました。その津波が熊本県まで到着しています。「島原大変肥後迷惑」という名前が付けられていますが、多くの熊本県の方が亡くなりました。現在でもこの沿岸地域には津波の石碑が立っています。2016年の熊本地震は記憶に新しいところですが、それ以外にも、熊本県は豪雨災害、高潮災害、津波災害、火山災害と数多くの災害が発生する場所で、それに対する備えをしてきた場所でもあります。



寛政四年(1792年) 島原大変肥後迷惑
雲仙普賢岳噴火と眉山山体崩壊

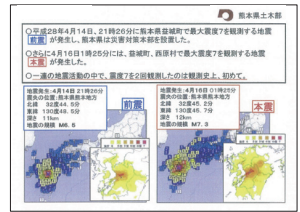
平成28年熊本地震

以上のような状況の中で、2016年(平成28年)に熊本地震が発生しました。

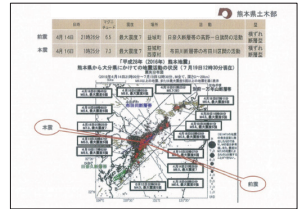
熊本地震は4月14日に前震、28時間後の16日に本震が発生しました。マグニチュードは前震が6.5、本震が7.3と、2回のマグニチュード7を記録した初めての地震と紹介されて

います。

前震は益城町を中心に震度7が観測されていますが、四国、中国地方まで揺れが観測されています。本震は関東まで震度1の地震が観測されています。熊本地震は震度7が2度観測されたことが大きな特徴とされていますが、もう一つの特徴として、余震が非常に数多く発生しています。現在でもまだ続いている状態です。阪神・淡路大地震、新潟県中越地震、東日本大震災よりも余震の数が多いという観測結果が出ています。



震度分布



震度(熊本地方)付近の状況

被害の概要

人的被害については、死者264名、内訳としては、直接死50名、関連死214名です。直接死は、建物に挟まれたりした直接的要因によって亡くなられた場合です。直接死の中でお一人行方不明者がおられました。その方も2016年8月に発見されましたので、現在行方不明者はおりません。関連死にはいくつか定義がありますが、エコノミー症候群であったり、自殺であったりや様々な理由で亡くなった方、病気が悪化された方等です。これは現在でも増え続けています。負傷者は2,635名、重軽傷様々です。足を無くされて車椅子になった方、ガラスで手を切られた方を含めて2,635名と報告されています。

(1) 人的被害 (平成30年4月13日現在)
死者: 264人 (直接死: 50人)
負傷者: 2,635人
(2) 建物被害 (全壊・半壊・一部損壊)
180,603棟
(3) 避難所・避難者 (最大時 平成28年4月17日時点)
避難所: 183,882カ所
避難者: 855箇所

熊本県資料より

被害概要

建物被害は、全壊・半壊・一部損壊を含めて180,603棟と報告されています。これも手続きをした結果の数字です。手続きが面倒でないという方もいて、そういう方はデータに上がってきません。

避難所・避難者は、本震の翌日4月17日の最大時で、避難者数183,882名、避難所数885カ所と記録に残っています。

私には2歳になる息子がおりますが、震災当時、臨月で出産の為に熊本県を不在にしていました。3月末の卒業式終了後、4月から産休に入り、2週間後に地震がありました。その1週間後に出産しましたが、熊本県に戻ることもできず、どうしたらいいかと思いながら時間が過ぎていきました。外からできることはないかと考えました。大学の中で多くの先生方が調査をしていましたので、そのデータのバックアップをしたりとできることを行っていました。1年間産休を取る予定でしたが、半年で現場復帰をしました。

避難所調査

復帰してまず始めたのは避難所の調査です。当時、避難所は数カ所残っていましたが、安定期に入っていました。避難所を運営された方々を中心にどういう状況に陥ったのかをヒヤリングしていきました。様々な方が避難所を運営していました。自治会の人であったり、学校の先生であったり、地域の人であったり、役所の人であったり、それぞれの立場でいろいろな課題があることが明らかになっていきました。

明日のフィールドワークで益城町を通られると伺っていますが、まだ文化会館は残っていますが、倒壊した建物は撤去されています。更地になっているところは建物があったとイメージをしていただきながら、熊本県、益城町を見ていただけたらと思います。

あらゆる建物が崩れています。益城町は熊本市の東側にあって、熊本市のベッタウンとして西側の地域は新興住宅地が発達しているところです。阿蘇山に近い東側の地域は古くから集落が発達しているところです。阿蘇山から道路が2つに分かれているところは立野という地名です。こちらを通られると聞いていますが、この立野地域では地震で土砂が大規模に崩れ、大きな崩壊が発生しました。熊本県から大分県につながる国道57号線が通っています。その国道57号線と国道325号線の分岐点が黒川で、阿蘇大橋という大きな橋が架かっていた場所です。

阿蘇山は大きなカルデラを形成しています。カルデラとは大きな鍋という意味、窪地です。9万年前までは大きな窪地で、その中に水が溜まっていたと言われていました。伝説によると、大きな男がカルデラを蹴って水が抜けた場所が立野だと言われています。立野は阿蘇山の入口でもあり、重要な交通の結節点でもあったわけです。ここが大規模に崩れて、現在でも57号線は通行止めです。阿蘇大橋も地震の影響で崩落してしまいました。現在新しい阿蘇大橋を架ける作業が少しずつ進んでいます。現在でも橋桁が落ちている状況が残っています。全長206メートルの大きな橋でした。

明日通られる長陽大橋は修理されて、熊本市から阿蘇に抜けられるようになっていきます。その長陽大橋の地震直後の状況です。橋桁は残っていますが、橋の手前が崩れています。ほとんどの橋がこのような状態で交通が遮断されていた中で、被害の状況を明らかにしていくことが大きな課題でした。

今回の熊本地震は布田川断層帯と日奈久断層帯という大きな断層帯の活動により発生した可能性が高いと言われていきます。特に布田川断層帯と日奈久断層帯の一部で地震が発生したわけですが、地表まで地震の割れ目が現れたものを地表地震断層と言いますが、その地表地震断層が熊本県内30kmに亘って観測されています。これは非常に大きな地震であったことを表しています。今回の地震による地表地震断層は熊本県内で3カ所、国の天然記念物に指定されました。

このような状況の中で、18万人を越える避難者が出て、855カ所の避難所が設置されました。その後、仮設住宅が設置されました。仮設住宅には、プレハブ型の応急仮設住宅とマンションや民間の賃貸を活用したみなし仮設住宅



熊本地震における仮設団地

宅、自分で再建する自力仮設住宅の3種類に分かれます。プレハブ型の応急仮設住宅は、県内45市町村の中の16市町村で110団地、4,303戸建設されています。住宅だけではなく、商店街も被災したので、このような形で仮設住宅に一部移っています。2年経って、仮設住宅を出て行かれた方も多々いらっしゃいますので、縮小傾向にあり、閉じていく段階にあります。

この仮設住宅の図の、左は東日本大震災等従来の設置です。黄色は1DK、青が2DK、赤が3Kの間取りになっています。集会所は仮設団地の端に設置されています。熊本県で設置された間取りは右



です。中心に集会所を置き、集会所を取り巻くように1DKのひとり暮らしの人を配置します。そして、建物と建物間の通路を広めに取っています。これは東日本大震災での経験から、一人暮らしの住宅を集会所から離れた場所に設置するとコミュニケーションが取りにくくなり、孤独死を誘発する状況に陥ることが明らかになったので、イベントなどを行う集会所の周辺に一人暮らしの方を配置するようにしています。

また、仮設住宅はプレハブですので、音が筒抜けになります。隣同士の生活音が伝わってしまうことは課題として当然ですが、建物が近接していると通路を挟んでも生活音が伝わってしまいます。そこで、熊本地震では通路を広めにとることで、少しでも生活音による不便さを解消する努力もしています。

熊本大学自体も被災をしました。私の研究室があった工学部1号館は、大きく水平にクラックが入り、足元のところは基礎が割れてしまう状況でした。私の研究室内部は、思ったほど本は落ちなかったのですが、本棚の一番端の本が飛び出しています。

工学部1号館は取り壊しになりましたので、私たちの研究室は仮設校舎に入っています。仮設校舎も仮設住宅と同じような状況で、隣の研究室の電話が鳴ると、まるで私の電話かなと思うほどです。私の部屋は2階ですが、1階の先生方は2階の歩く音で大変だという話もしています。また、夏は暑く冬は寒く、外の工事の音も筒抜けの状態の中で授業や研究をしているのが現在の状況です。仮設校舎は来年3月までの予定ですが、もう少し時間がかかるのではないかとされています。

ます。熊本大学も私自身もまだまだ復興の最中にあります。

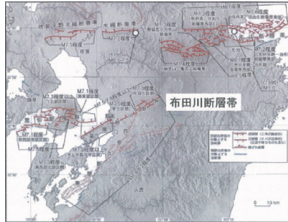
想定されていた地震

熊本地震は想定されていた地震と言われています。

1995年に阪神淡路大地震が起きた後、活断層の調査が進みました。それにより、詳細な活断層の位置図が作られ公表されました。九州においても、布田川・日奈久断層帯は活動する確率が非常に高いということで調査がくり返し行われ、その発生確率も示されました。それを受けて、布田川・日奈久断層帯がM7.9の規模で動く想定され、それに基づいて16市町村で震度7が予測されるということで、平成25年、熊本地震の3年前に熊本県地域防災計画を見直しています。熊本県では多くの方が読んでいた熊本日日新聞でも、「地震が来る」と7回に渡って掲載していました。1889年に明治熊本地震があり大きな被害をもたらしました。しかし、多くの方々には明治熊本地震の経験が伝承されておらず、また平成25年に見直された布田川・日奈久断層帯での想定も十分に伝わっておらず、多くの方は「まさか震度7の地震が起こるとは思わなかった」と口々におっしゃっていました。そういう中で多くの方が準備のないまま避難をされています。



平成25年3月熊本県地域防災計画見直し 布田川・日奈久断層帯でM7.9を想定 16市町村で震度7を予測



九州中部の活断層 地震調査研究推進本部



熊本日日新聞で7回にわたり掲載



1889年 明治熊本地震

避難所運営の課題

避難所運営では大きな課題がありました。様々な災害がありますが、自宅が被災した場合は広場のような一時避難所でまず安全を確保して、そこから広域避難所、いわゆる小学校の体育館等に避難します。直接そちらに行かれる方もいます。その後、避難所から怪我をした方や治療の必要な方は医療機関に行きます。介護が必要な方や障害をお持ちの方等は福祉施設に移動します。親類や知人宅に行く方もいれば、これを機会に引越される方もいます。多くの方は留まり長い避難所生活を送ります。その後、みなし仮設住宅

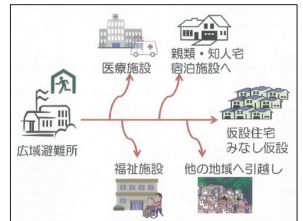
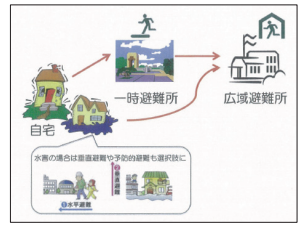
に移り、将来的には住宅を再建し、復興していきます。

6カ月後の11月18日まで避難所がありました。これは南阿蘇村の中学校の体育館です。何人くらいいると思いますか。当時、1200人避難していたそうです。どうやって数えたかと質問したら、数えることができないので大体の数字だということでした。183,882名が避難されたとありますが、体育館に入った人だけを数えています。車中泊等は含まれていません。

避難所でヒヤリングをしていくと、いろいろな課題がありました。「何も持たずに避難したので、名簿を作ることができなかった」「役割を示す腕章等がなく、受付で案内をしてもどういう立場で言っているのかと怒鳴られた」「最初に通路を作らなかったのに、非常に雑多な状況が最後まで続いてしまった」と様々な課題がありました。

整理しますと、避難所を開設し、避難所を運営する段階の中で、避難所を開設する部分で多くの課題があったことが明らかになりました。避難所の開設では、まずは安全な場所を確保し、配置を考える。安全に人を誘導する。避難してこられた方が何人かという支援を必要としているのかを把握する。そして、外から来る支援という次の段階に備えていく。これが避難所を開設するとき重要な内容ではないかということがヒヤリング調査をしていく中で明らかになっていきました。

そのために最低限の道具が必要です。家の中がぐちゃぐちゃで、紙やペンが必要とわかっていても掘り出すことが難しかった

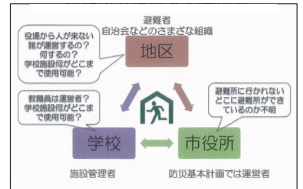


- 避難者数 183,882人(ピーク時)
- 避難所数 855箇所(ピーク時)
- 平成28年11月18日に県内全ての避難所が解消

熊本地震における避難所

- 4月14日 学校職員による運営
- 4月15日 役員職員による運営
- 4月16日 停電していたが電話は通じた。しかし、問い合わせが多くとても大変。最大約300名が避難
- 4月17日 兵庫県からSEART+1(震災・学校支援チーム)
- 4月18日 避難所リラゲの設置
- 毎日8時と19時に打ち合わせ
- NPO法人AMOMAによる運営
- 4月23日(1週間程度) 電気が復旧した
- 4月30日(2週間程度) ソーラーパネル、仮設トイレが設置
- 5月9日 教室から体育館へ移動。水害が原因
- 5月9日 授業再開。地域主体の運営となる
- 8月18日 避難所閉鎖

益城町A小学校の避難所運営

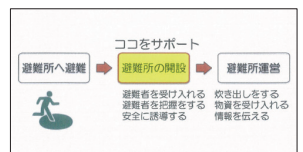


避難所を構成する関係者

熊本地震時に避難所運営を行った自主防災組織等へのヒヤリングで

「何も持たずに避難をしたので、名簿を作る紙やペンが無かった」
 「役割を示す腕章がなかった」
 「最初に通路などを作らなかったため後で確保するのが大変だった」

などの意見があった。



たと皆さんおっしゃっていました。そこで、最低限の道具を1つにパッキングして「避難所初動運営キット」と名づけて、配置をしてはどうかと提案しています。中身はヒヤリング結果から厳選した25点を入れています。間取りに必要な道具、案内表示、誘導に必要な道具、受付に必要な道具、いろいろなことに使える道具等です。ポリ袋はゴミ袋としても、敷物としても、ポンチョとしても使えますが、益城町では広げてホワイトボードのかわりに使っていました。こういった避難所初動運営キットによって、避難所の運営が少しでも改善するのではないかと考えて、様々なところで防災訓練をさせていただきながら勤めています。

熊本県の自然災害の概要と2年前に発生した熊本地震の状況、そして現在の状況についてお話させていただきました。熊本地震は震度7が2回と報道されていますが、その後に出てきた課題は、東日本大震災でも、阪神淡路大震災でも、新潟県中越地震でも出た課題でもあります。まったく新しく出た課題でもありません。熊本県では同じような課題を繰り返しているところもあります。皆さんは全国各地からお越しになられていますので、今回の熊本地震の教訓を各地域に持ち帰られて、熊本地震で発生した課題が他の地域では繰り返さないように備えていただけたらと思います。

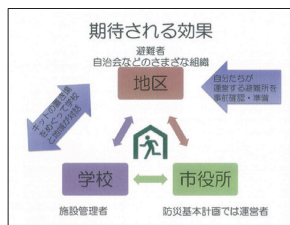
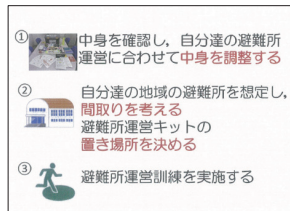
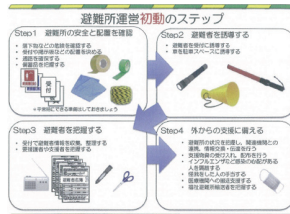
質疑応答

Q: 25点のキットがあるということですが、どこかで見るとはできるのでしょうか。

竹内: キットについては、4カ月前程に朝日新聞で取り上げていただきました。その記事に一覧が載っています。現在、熊本大学がライセンス契約をしている会社と販売させていただけるように準備が整いました。熊本大学に問い合わせいただ



この運営キットは避難所の開設と初期の避難所運営支援を目的に最低限の道具25点をまとめています。



ければ、25点セットになったものを購入いただけるように準備をしています。1セット27,000円(送料別)となっています。

Q: 避難所の立ち上げのときにどなたがするかがいつも問題になっています。行政がリーダーシップを取っていただく必要があると思います。避難された方が自主的に立ち上げるのは非常に難しいのではないかと思います。行政は、自分たちでやってくださいと自主運営を進めるように力を入れているように見えますが、そのへんはどうお考えでしょうか。

竹内: そのあたりの話は難しいのですが、避難所の運営に関わる人たちは、行政の他に避難所の場所の管理者です。多くの場合は、小中の学校が避難所になりますので、学校長や職員が関わります。そして、地域の方です。

今回の熊本地震は、授業中ではなく夜でしたので、避難所の運営を先生方が始めています。しかし、昼間の場合は子どもの安全確保が優先されますので、先生方が避難所の運営を行うのは困難です。学校の調査もかなりしていますが、今後の災害を考えると、学校が主体的に避難所を運営するのは困難です。また、行政職員も避難所までの道がかなり破損していましたので、たどり着くことが難しいということもあります。そして、マンパワー的に行政職員がパイプ役にはなりますが、全物資の運搬、食事の配膳といったことを含めて、何人いて、どのくらい食事が必要なのか、どこに配置するのかといったことは行政が行うよりは自主防災組織が行う方がスムーズであったことが事実としてあります。行政だけが行う、学校だけが行うのではなく、地域の方も含めて三者が日頃から避難所を意識して、地域の運営に関わっていくことが重要です。高齢化して地域の方だけで行うのは難しいという地域もありますので、そこは平常時から行政が状況を把握して主体的に入っていくような準備をする必要がありますが、全てが行政が主導、住民が主導と割り切ることはできません。

私が作りました避難所初動運営キットは、販売時8割の完成を謳っています。それは、皆さんの避難する場所であったり、運営する避難所の状況が異なっているので、残り2割はご自身の状況に合わせて完成させてくださいということをコンセプトとして持っています。その2割の中には、誰が中心となって避難所を運営するのか、自治会なのか、行政なのか、学校なのかを話し合うことも入っています。十分な答えにならないかもしれませんが、必ずしも行政と切り切れないところもあります。



ご挨拶

立正大学同窓会 副会長 立正大学同窓会活性化会議 事務局長 加茂 佳史

「立正大学同窓会活性化会議」の設置について

本年5月の代議員会においてご報告させていただいたとおり、本同窓会が抱える課題について議論する場として、「立正大学同窓会活性化会議」（プロジェクトチーム）を新たに設置いたしました。

この会議では、本部（学部）・支部を問わず、同窓生の皆様の意見を反映できるように、全国の支部から選出された4名の代議員の方々にもご参加いただいております。

メンバー紹介	支部選出	星 紀之（宮城県支部代議員）・姥貝 荘一（東京都多摩支部代議員）・中村 龍央（福井県支部代議員）・岡 裕二（熊本県支部代議員）
	本部選出	岩谷 宣行・加茂 佳史（総務委員会）、齊藤 岐代末・大塚 博（広報委員会）、鈴木 嘉昭・五島 正夫（財務委員会）

7月14日には第1回会議を開催し、メンバーの互選によりリーダー（議長）に星紀之（宮城県支部代議員）、サブリーダー（副議長）に齊藤岐代末（広報委員長）を選出しました。

会議の開催にあたり、野坂会長から次の3点（①本部（学部）・支部間の情報連携体制の強化方法について、②活動実績に応じた予算配分（助成制度の再構築）について、③各地域における同窓会活動の拠点形成について）の諮問を受け、議論を開始したところです。

昨年度実施した支部長アンケートの結果や各支部へのヒアリング状況等を報告させていただき、今後の議論の方向性について、約3時間にわたり様々な意見が出されました。引き続き年度末を目処に議論を進めていき、会長に答申した

と考えております。

ところで、今回のプロジェクトを進めている中で、「ブロック化」という言葉を耳にされているかと思います。実際に多くの方からご関心やご意見をお寄せいただいている「ブロック化」について、その意図や方向性についてご説明させていただきたいと思っております。

現在、西日本地域を中心に同窓会活動が停滞（休止）している支部が多く、その数は支部全体の約3割を超える状況にあります。こうした中で活動の継続や再開を図るためには、それぞれの地域で広域的な連携が必要ではないかと考えております。（これらの対応として、四国や九州地域における広域的な活動（橘会との共催による「地域立正大学の集い」など）があります。）

一方で、それぞれの支部の独自性や地域性を鑑みると、現行の支部制度（代議員制度を含む）については、引き続き維持していく必要性を強く感じております。その上で、これまでの各支部（地域）における活動を大切にしつつ、支部（地域）間の交流事業等については「地域立正大学の集い」を全国に展開し、同窓生のみならず在学生のご父母などの関係者の方々との連携や交流を図れる取り組みを進め、それぞれの地域における「立正大学」の存在を高めて参りたいと考えております。

諸先輩方が築き上げて来られた伝統と人的ネットワークを礎として、同窓生同士の交流はもちろんのこと、在学生・ご父母・社会のお役に立てる同窓会となるよう努めて参りますので、全国の同窓生の皆様のお力をお貸しいただきますようお願い申し上げます。

立正大学同窓会主催

「立正大学物故者追善法要」開催報告

6月12日（火）に品川キャンパスの532教室にて、立正大学同窓会主催による「立正大学物故者追善法要」を行ないました。

導師を野坂同窓会会長がつとめ、副導師を赤羽仏教学部同窓会会長と浅井仏教学部同窓会副会長がつとめ、式衆、知堂を仏教学部同窓会の方々がつとめました。

大学関係者をはじめ、在校生、卒業生、地域の方々など、約120名の方に参列頂き、立正大学に関わる全ての霊位に祈りを捧げました。



法要の様子



須弥壇



左 浅井慶信仏教学部同窓会副会長 中央 野坂法雄同窓会会長 右 赤羽文宏仏教学部同窓会会長

平成30年度

立正大学同窓会定期総会報告

立正大学同窓会広報委員長 齊藤 岐代未

平成30年度立正大学同窓会定期総会並びに懇親会が6月16日(土)に熊本市、ANAクラウンプラザホテルにおいて開催されました。会場には全国から150名を超える同窓生をお迎えして、初の試みとなる4部制の日程で執り行われました。

第1部、校友会主催講演会を熊本大学大学院先端科学研究部准教授(本学卒業)の竹内裕希子先生による「熊本震災の概要と自然災害への備え」についてご講演を頂きました。近年、気象変動への適応策に関する関心の高さから、出席者一同は真剣に講演を拝聴いたしました。こうした講演を通じて同窓会の繋がりができたことは大変貴重な財産です。

第2部、平成30年度立正大学同窓会定期総会が行われ、来賓として大学より望月理事長、齊藤学長、池上副学長、高村校友会名誉会長、山崎立正大学名誉教授、二ノ宮同窓会名誉会長にご臨席を賜り、ご挨拶を頂きました。議事では、本部役員承認後、報告事項として平成29年度事業報告・決算・監査報告、平成30年度事業計画・予算、物故者追善報告がなされました。さらに11月3日(土)の橘花祭とホームカミングデーの開催について内容の報告等がされました。また野坂会長より支部加入による「新プロジェクトチーム」設置について報告がありました。有益な質問を多く頂き、役員一同真摯

6月16日(土)



各支部パネルによる紹介



野坂同窓会会長挨拶



来賓



総会議事



グループ別交流会



熊本県立鹿本農業高等学校による伝統芸能 山鹿灯籠踊り



集合写真

に拝聴しました。会場内に各支部活動内容をパネル化した展示は好評でした。

記念撮影後に第3部へ、新たな挑戦として支部内の枠や学部を切り離し班ごとのグループワークを行い、齊藤学長等もご参加いただきました。「同窓会活動の現状や課題等」について参加者の方々と共に議論し発表を行いました。同窓会が強烈な誘因を持つ場のすごさと不思議さを感じます。このことで班を超えたグループの一体感が高まったことは、学部や支部の枠を超えた人的ネットワークが形成されたと思われました。それぞれの地域の実情を尊重しながら、まずできることから無理なく連携・交流を始めていければと考えています。

第4部の懇親会前に「山鹿灯籠踊り」を熊本県立鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部により披露され、和紙と糊だけで作られた冠をつけた室町時代から伝わる優雅で美しい踊りに、皆一様に感激されていました。その後、地元の歓迎挨拶

から始まり、壇上にて各支部の特色を紹介し合い懇親を深めました。

翌17日は九州連合（熊本県）支部役員のお骨折りで、熊本城の修復状況を見学、阿蘇南郷谷白川水源・草千里へ移動し昼食後、熊本空港・熊本駅コースにそれぞれ分かれ品川キャンパスでの再会を約し親交が深まる楽しい散策をいたしました。

最後に、計画・立案・調整等をご尽力いただきました九州連合の皆様をはじめ、ご臨席を賜りました大学関係者の方々、同窓生の皆様、さらに校友会の方々の快い対応に心から感謝申し上げます。着実に進行する少子高齢化にむけて同窓会は、会員数の増加をめざすため、同窓会本部と各支部のつながりを太くしていきます。大学との架け橋になれるよう優先順位を把握して、ゼロサムではなくプラスサムの視点で対応してまいります。大事なことは、リアクションではなく、アクションを起こして大学の魅力を発信していきましょう。

6月17日(土)



九州連合会長・熊本県支部長による地元歓迎のご挨拶



二ノ宮同窓会名誉会長による乾杯



宴会の様子



閉会のことば 三澤同窓会副会長



ガイドの方による熊本城の解説



被災地区



雄大な草千里



熊本城



白川水源



草千里にて集合写真

同窓会支部総会開催報告

【東京都支部】

- ◆ 5月26日(土)
- ◆ 荒川区 ホテルラングウッド
- ◆ 高村校友会名誉会長、二ノ宮同窓会名誉会長、三澤経済学部会長出席



【静岡県支部】

- ◆ 6月23日(土)
- ◆ 静岡市 茄子の花 無庵
- ◆ 講演会：「都市化と温暖化のダブルパンチ～日本はどこまで暑くなる～」鈴木パーカー 明日香氏(立正大学 地球環境科学部助教)



【山梨県支部】

- ◆ 6月30日(土)
- ◆ 甲府市 山梨県立図書館
- ◆ 講演会：「税と社会保障と貧困と」浦野広明氏(立正大学客員教授)
- ◆ 西岡同窓会副会長出席



同窓会支部活動報告

【150周年記念事業募金】

山形県支部より寄付を頂きました。

皆様には本記念事業の趣旨をご賢察・ご理解頂き、募金勧募にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨今の厳しい経済情勢の中、かようなお願いはまことに心苦しい次第ではございますが、本学園の建学の精神の発揚、輝かしい未来の発展へ繋げていくために、絶大なご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

【募金要項】

総事業費：150億円

募金名称：学校法人立正大学学園開校150周年記念事業募金

募金目的：150周年記念事業の実施に要する資金調達の為

募金目標額：15億円

【個人の方】

学生の方：1口3千円、一般の方：1口1万円
金額の多寡にかかわらず1口未満でも有り難くお受けいたします。

複数口でのご協力をいただければ幸いです。

【法人・団体の方】

1口の金額は定めておりません。

募集期間：2018年1月～2023年10月末日

【詳しくはHPにて】

<http://www.ris.ac.jp/150th/index.html>

立正大学同窓会・立正大学橘会共催

保護者懇談会&北東北三県地域校友の集い開催いたしました。

平成30年6月23日(土)青森市にあります、ホテルJALシティ青森にて、立正大学橘会保護者懇談会青森会場開催の後、立正大学同窓会北東北三県地域校友の集い合同懇親会を開催いたしました。

保護者懇談会では田中橘会会長、池上副学長、野坂同窓会会長のご挨拶、キャリアサポートセンター課長からの就職に関するお話、その後成績表にもとづいての個人面接がおこなわれました。

合同懇親会では、青森県支部長、青森県在住卒業生、同

窓会役員、青森県各地からご参加の保護者の方、大学からの出張者と円卓を囲んでの懇親会となりました。卒業生の方と保護者の方のお話は、出身地の話からはじまり、就職に関する話まで多岐にわたり、和気藹々と懇親を深め閉会となりました。



立正大学同窓会・立正大学橘会共催

保護者懇談会&南東北三県地域校友の集い開催いたしました。

平成30年6月24日(日)仙台市にあります、ホテルベルエア仙台にて、立正大学橘会保護者懇談会仙台会場開催の後、立正大学同窓会南東北三県地域校友の集い合同懇親会を開催いたしました。

保護者懇談会では田中橘会会長、池上副学長、野坂同窓会会長のご挨拶、キャリアサポートセンター課長からの就職に関するお話、その後成績表にもとづいての個人面接がおこなわれました。

合同懇親会では、宮城県支部長、宮城・山形・福島県在住卒業生、同窓会役員、宮城・岩手・山形県からご参加の保護者の方、大学からの出張者との懇親会となりました。

山形県の卒業生の方から、旬の大きなさくらんぼの差入れがあり、卒業生と保護者の方のお話しは、就職についてのお話がメインではありましたが、出席者みな和気藹々と帰りの電車の時間を気にしながらの懇親会となりました。



平成 30 年度 橘会保護者懇談会開催報告

今年も、各地で保護者懇談会が始まりました。社会情勢の変化が激しい中、学生のおかれている環境は厳しいものとなっています。その中で、大学の先生方より直接学修や就職についてお話が伺え、保護者同士の情報交換ができるのが、この保護者懇談会です。すでに多くの保護者の皆様からお声を頂戴しており、今回号と次号(1月1日号)にてご紹介いたします。

新潟会場



- 日にち: 平成30年5月27日(日)
 - 会場: 万代シルバーホテル(新潟県新潟市)
 - 参加数: 32人
- 保護者懇談会に参加して 村上 徹(新潟県)

子供が入学してから毎年参加させて頂き、これが4回目となり最後となりました。毎回思う事ですが、地方に住んでいますと大学生活の様子や就職に関しては、子供から聞く以外に方法はなく、この様な会を各地方で開催して頂けることは大変ありがたく感謝の気持ちで一杯です。

さて、懇談会の内容ですが、教職員の紹介から始まり、橘会会長の挨拶、齊藤学長のビデオメッセージ、父母のための就職講座、最後に個人面談という限られた時間ながら内容の濃いものとなっています。

特に今年度は子供が就職学年ということで、親として心配や不安が尽きませんが、キャリアサポート課の先生を中心に学生1人ひとりにきめ細かいサポートをしてくださっていることが十分に伝わってきました。特に今どきの就職活動の進め方は昔と比べて大きく変わってきました。主役はもちろん学生ですがそれを大学・親が三位一体となってサポートしていく重要性をすごく感じました。

また個人面談では、大学生活や成績の話はもちろんですが、特に就職や将来のキャリアビジョンについて担当の先生がしっかりと把握されて、それをお聞きした時は、大学生活を通してわが子が大きく成長したことに、親として何よりの喜びと謝意を申し上げる次第です。

最後に、保護者懇談会開催にあたりご尽力いただいた橘会田中会長をはじめ関係者の皆様そして大学教職員の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、立正大学・橘会の益々の発展を祈念致します。ありがとうございました。

青森会場



- 日にち: 平成30年6月23日(土)
 - 会場: ホテルJALシティ青森(青森県青森市)
 - 参加数: 14人
- 保護者懇談会に参加して 玉熊 隆治(青森県)

地球環境科学部に通う4年生の娘の父です。昨年の盛岡会場に引き続き参加いたしました。昨年は初めて参加し、どのような雰囲気なのか、参加人数はどのくらいなのか等、不安に思いながらも参加しました次第です。親の住むところから遠く離れたところに通っているもの

ですから、立正大学に入学したものの、自分達、親はあまり大学を身近に感じる事ができなかったのが事実です。保護者懇談会に参加することで生の情報が聞くことができ、大学の状況や就職情報、個人面談では我が子の就学状況、さらにはゼミの先生から我が子に関するコメントまで聞くことができました。このような機会はなかなかないものです。

また、今回は懇親会もあり、参加させていただきました。大学の副学長を始め、キャリアサポートセンターや大学職員の方、OB、他の保護者の方など多数の方と懇談することができました。立正大学の雰囲気の良さを肌で感じ、良い大学なのだと思います。

また、なかなか聞けない情報を聞くことができましたし、保護者同士の情報交換も意味のあるものでした。大変有意義な時間でした。参加しないと得ることができないものです。まだまだ参加人数が少ないのが現状です。まだ参加したことのない方も思い切ってぜひ参加してみたらよろしいかと思います。懇親会がある場合は必ず参加した方がいいと思います。絶対おすすめです。

懇談会の開催にあたり、職員や関係者の方には深く感謝申し上げます。このような機会を設けていただきありがとうございます。

仙台会場



- 日にち: 平成30年6月24日(日)
 - 会場: ホテルベルエア仙台(宮城県仙台市)
 - 参加数: 20人
- 保護者懇談会に参加して 安部 将憲・淑子(山形県)

今年、娘が心理学部臨床心理学科に入学しました。保護者懇談会は今回が初めての参加

になります。

これまで私たちは「立正大学」について存在こそ知っていましたが、校風など何も知らずに参加したので、当日は主人と2人やや緊張して会場に入りました。いよいよ保護者懇談会が始まり、次第とおり進むかと思いきや普通は最後になるであろう記念撮影に笑いが起こり、また橘会会長さんやキャリアサポート担当の方たちご自身の楽しく、笑える経験談を聞いているうちにようやく「立正大学」の雰囲気にも慣れました。

「父母のための就職講座」では、グループごとに自己紹介をするという課題がありました。専業主婦の私にとってこの経験はとても新鮮で勉強になりました。子供たちが就職活動での面接で、毎回どんな緊張を強いられていたのかを実感できたのです。息子がちょうど4年生で就活をしていたのですが、就職活動の大変さを本人や大学から聞いていたとはいえ、イメージするだけ

と実際に体験するとは大違いでした。

その後には個人面談がありました。1年生ですし、まだ成績も出ていない時期だったので主人も私も正直、形式だけの面接だろうと思っていました。ところが、実際面談をしてくださった方は学事課の方だったのですが、担当の先生からというコメントを聞く事ができました。代読という形とはいえ、まさか学内での娘の様子が聞けるとはとても驚きました。学生1人ひとりに真摯に対応していただいている様子がわかり、とても安心しました。

今回このような機会を設けていただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



保護者懇談会に参加して 高橋 守 (秋田県)

4年生で就活に励む娘からのラインを見る度に、子育ての光陰矢の如しを実感する今日この頃です。爽やかな緑風薫る杜の都仙台で開催された保護者懇談会に妻と二人で参加させていただきました。

橘会会長田中様の誠実なお人柄が伺える司会進行により、スムーズにそして穏やかに会が進みました。全体会では、池上副学長様からキャリア講座への対応や就職活動への支援体制など充実しているサポート体制等を再確認させていただき大変心強く感じました。また、同窓会の野坂様からもオール立正で共に頑張ってくださいという趣旨のお言葉をいただき、大変感銘いたしました。

父母のための就職講座では、草川課長様から、現在の就活の疑似体験を踏まえ、企業の規模別の採用傾向や求められる人材等を、わかりやすいデータで解説していただき、大変参考になりました。また、企業側の現役の採用担当者のビデオでは、面接に際してはマニュアルどおりの人材ではなく、個性(自分の経験や考え)をベースにした受け答えができる人材が求められているということを学びました。正に現在進行形でエントリーしている試験や面接について、早速娘と会話を持ちたいと二人で帰りの車の中で確認しました。

個人面談では、伊勢崎課長様から娘の成績の概要を説明いただくとともに、大学で学んだ専門的な知識は社会人になった後でも様々な職種はもちろん、さまざまな場面において生かされる面が多いというアドバイスをいただき、私たちでは知り得ない知識をたくさん得ることができました。今回参加させていただいたことに感謝申し上げますとともに、橘会のますますのご盛栄をご祈念申し上げ、結びとさせていただきます。ありがとうございました。

大 阪 会 場



- 日にち: 平成30年7月8日(日)
- 会 場: ニューオオサカホテル(大阪府大阪市)
- 参加数: 8人

保護者懇談会に参加して 大羽 可笑(滋賀県)

この度私自身2回目の懇談会に参加させていただきました。西日本豪雨の影響により前日の岡山会場での開催は叶わなかったようですがそんな中大阪会場は予定通り行われ有難く感謝しております。被災地の皆様

には1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて懇談会におきましては昨年と同様に齊藤学長から丁寧な挨拶と共に開校150周年に向けての意気込みが感じられオリンピックも迫ってきているので目まぐるしい日々の大学の状況が分かりました。なごやかな雰囲気の中で懇談会は行われ同じテーブルの方とゆったりと会話することも出来ました。

何と云ってもご出席いただいております橘会副会長様よりゆっくりと就活の状況をお話していただけたことや直接先生に質問できる時間は魅力です。ふらっと大学に立ち寄りするだけではこのような貴重な時間を確保することは難しいと感じました。とにかく先生方と学生の距離、保護者と先生方の距離に近いことが想像以上です。懇談会への参加をお勧めいたします。先生方や保護者同士のミーティング内容も多岐にわたります。関西地区の生徒は下宿が当たり前ですので暮らしている場所やどんな生活を送っているのか、学部での学修や部活のこと、成績やアルバイトのこと、もやもやと頭の中でめぐらせていることが心配から安心に変わる瞬間がありました。立正大学をもっと知りたいと思いました。気さくに話す事ができるそんな学校で息子は学ばせていただいていることに感謝いたします。終わりに忙しい中このような機会を設けて下さった関係者の皆様にお礼申し上げます。そして就活されている生徒の皆さん、立正大学で学んだ知識や知恵を植物が成長する際の栄養分のように活かし広く世界でも活躍していただけたらと思います。応援しています。



保護者懇談会に参加して 細木 真由子(奈良県)

品川キャンパスに通う2年の息子の母です。昨年に引き続き、大阪会場に参加させていただきました。数日前より続く西日本豪雨の中、先生方におかれましては大変な中、開催して頂き感謝でした。昨年ドキドキしながら参加させて頂きましたが、遠くに子供を通学させている親同士の悩みや近況を情報交換することができ、とても強い絆が出来ました。

齊藤学長によるビデオメッセージにて「箱根駅伝出場を果たして立正大学ブランドの飛躍を目指す」とのお言葉に嬉しさを感しました。大阪のほうではまだ知名度が低いので、これほど伝統があり素晴らしい大学なので、実現することを心より望みます。

「父母のための就職講座」ではインターンシップの大切さを教えて頂き、どれだけ早めに始めていくことが必要かと感じました時、まだ2年生とと思っていましたが、夏休みに帰省した時にいろいろ話をしたいと思いました。

個人面談では、成績通知表のこと、履修単位のこと、ゼミの先生のコメントや学校生活のことを伝えて頂き、決して本人の話からは知りえない情報を知ることができ、安心すると共に生徒1人ひとりに対する先生方の手厚いサポートに感激しました。1人暮らしをしながら頑張っていることを本人に褒めることが出来、たくさんのお支えの中で学ばせて頂いていることも感謝でした。大学でここまで丁寧な保護者懇談会を開いて下さるという話は聞いたことがないので、良い大学に通わせて頂いていることを誇りに思います。

最後になりましたが、懇談会を開催されるにあたり、ご準備頂きました職員の皆様、橘会の役員様に心より感謝申し上げます。これからもよろしくお祈り申し上げます。

卒業生の活躍情報

「創部・戦後60周年記念事業・報告」

立正大学体育会剣道部橋会（剣道部OB・OG会）

会長 大滝 繁（昭和48年度卒）

体育会剣道部は、今年度「創部・戦後60周年」を迎えました。それに伴い、去る7月21日（土）に「追悼感謝・未来」をテーマに、記念事業（追善法要、記念式典・祝賀会）を行い、総勢124名が集いました。

追善法要は、導師を剣道部元顧問の大森宣昌先生・協導師を山田一成（平成15年度卒）、工藤浩真（平成20年度卒）が務め、参列者は、今は亡き恩師・諸先輩方のご冥福を祈ると共に合掌をいたしました。

記念式典は、立正大学学園理事長・望月兼雄様、立正大学学長・齊藤昇様にご臨席賜り、祝辞を頂戴しました。また、多年にわたり剣道部の発展に貢献していただいた5団体（日本郵政グループ本社剣道部、北秋田市剣道協会、裾野町剣友会、立正大学郵政会、卯月会）、個人（原嶋茂樹先生（教士八段）、亀田洗一郎様）に感謝状と記念品を授与させていただきました。祝賀会の乾杯時には、大森先生が「皆の顔を見れば、現役時代の思い出を直ぐに思い出す」と挨拶し、出席者たちは笑顔を浮かべました。また、会場に展示した108枚の写真を眺めながら、同期や先輩・後輩たちと思い出話を花を咲かせるとともに、現役学生と懇親を深めました。

記念事業にご協力ならびにご出席いただきました方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。剣道部は先輩方が築いてきた歴史と伝統を継承できるよう、卒業生・部員一同、取り組みますので、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



石橋湛山先生顕仰研究会「湛山会」のお知らせ

石橋湛山先生は、昭和の我が国の激動の時代に、日本の柱となり、我が国の政治・経済・社会・文化の広い分野で、リベラリストとして、エコノミストとして活躍され、日本の新しい進路を構築された業績に賛同し、平成24年に、石橋湛山先生の哲学・思想体系の追及と継承を目的として、石橋湛山先生顕仰研究会「湛山会」を発足しました。

石橋湛山先生を畏敬している同窓生をはじめ、多くの社会人に伝承すべく、機関誌「風紋」を平成25年7月に創刊し、第11号の運びとなりました。

石橋湛山先生は1884年（明治17年）9月25日に誕生し、1973年（昭和45年）4月25日に遷化されました。石橋湛山先生のご命日の4月25日は、毎年、「湛山忌」として、日暮里の菩提寺「善性寺」に有志相集い香花を献じ、ご祈念しております。



石橋湛山先生顕仰研究会「湛山会」

事務局 神奈川県横浜市都筑区北山田1-1-35-201
大嶋 康義（昭和33年 経済学部経済学科 卒業）
Eメール：bmc.ohshima@palette.plala.or.jp

教職員訃報

【平成30年6月11日～平成30年9月13日】

元情報メディアセンター・熊谷学術情報サービス課
早川 進 一氏（平成30年8月14日 逝去）
謹んで哀悼の意を表します



発行者 立正大学校友会
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
発行人 齊藤昇
編集者 立正大学学長室校友課
電話 03-3493-6673
URL <http://alumni.rissho.jp/>

INFORMATION

2018年度校友会費B

（卒業生・現元教職員等会費）のご案内

昨年度は校友会費B（3,000円）に約2,532件・7,616,000円のご協力を賜りました。皆様のご協力で深く御礼申し上げます。

ご協力頂きました会費は校友会奨学金、入学記念品、卒業記念品、課外活動助成金等の在校生支援事業および卒業生交流会費用や会報等発送に関する校友会運営費に充当させていただきます。

まだお振込がお済みでない会員の方は、専用振込用紙にてゆうちょ銀行よりお振込くださいますようお願い申し上げます。

なお、2016年度より毎号、振込用紙を同封しております。校友会費Bは年会費ですので、4月号より翌年3月31日迄に1度、お振込みいただきますと、その年の会費としてお預かりしております。振込用紙は毎回のように入りますが、皆様、一律にお送りしておりますので、ご了承下さい。

記入の際、下記青枠内において、本紙への氏名掲載を「許可する」。もしくは、「許可しない」のご希望をお伺いしております。どちらかが片方に○をお付けの上、お申込みくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。



卒業記念品



入学記念品

02 東京	払込取扱票	通帯払込科金 振込先 振込金額	00110000417250	3000
立正大学校友会				
校友会費B				
会 社 名 義： 立正大学校友会 学 校 名 義 または 研 究 科 義： 立正大学校友会 年 度 義（種 別 義）： 卒業生等				
ご振込先住所等（ご振込先住所と異なる場合は、振込先住所を記載してください）				
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16				
立正大学校友会				
00110000417250				
13000				
振込用紙請求書兼受領証				

立正大学生涯メールのご案内

立正大学では、卒業生・修了生が、同窓生同士の交流はもちろんのこと、本学との交流や情報交換を図り、無償、永年利用のメールサービスをおこなっております。詳細につきましては本誌5頁の記事、または校友会ホームページをご参照下さい。

校友会会員情報について

ご登録を頂いております。お名前・ご住所・電話番号・勤務先等にご変更および訂正がございましたら、下記までご連絡下さい。

変更届の内容

- ◆氏名 ◆ご住所 ◆電話番号
- ◆メールアドレス ◆勤務先または職業
- ◆校友会会員番号（校友会報・学園新聞宛名ラベルの番号）

お問い合わせ・お届け先

立正大学学長室校友課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
☎ 03 (3493) 6673 FAX: 03 (3493) 9068
Email : alu@ris.ac.jp

専用用紙は立正大学校友会ホームページ
(<http://alumni.rissho.jp/>) からダウンロードできます。

お知らせください

- ◆卒業生の活動情報やクラブ・サークルOB/OG会開催、卒業生のお店紹介等卒業生の活動に関する情報がございましたら上記お問い合わせまでご連絡ください。